

令和5年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		「仲良く 元気に がんばる子」 ～自らを磨き未来をひらく ころ豊かな児童の育成～		4月		2～3月		
推進主体		管理職と研究推進担当、学校改革推進委員会を中心に学力向上委員会を設置		学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)		
						年度末評価		
						(今年度の成果と来年度に向けた課題等)		
						評価		
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	○全体の正答率は、全国・兵庫県の平均とも上回っている。 ○言葉の特徴や使い方にに関する事項の正答率は76%・読むことの正答率は75%であり、全国や県と比べても良好である。 ○総じて、文章を読み取る力と言語に関する知識理解に係る力を問う設問の正答率が高い。 ◆話すことに関しては67%で、全国や県とほぼ同等の正答率である。 ◆書くことは40%、我が国の言語文化に関する事項は65%で、全国・県平均を下回っており、今後の課題といえる。 ◆自分の考えを論理的に組み立てて書く力、他者の意見を聞いてその内容を理解しそれに対する自分の考えを伝える力に課題があるといえる。	○語彙力の向上を目指す。 ○自分の考えを分かりやすく文章で表現して伝えることを意識し、論理的思考力を養う。	○国語の言語事項に関する項目の平均正答率を80%以上を目標とする。 ・読解力や思考力を問う問題で、全国平均を上回ることを目指す。	・下記の具体的な視点を元に日常生活で漢字を適切に使うことができるようにしていく。 ・読み方や字形に注意して繰り返し練習する。 ・既習の漢字を書かせ、漢字を使って文や文章を書く機会を設定する。 ・漢字を調べたり、活用したりする学習を多く取り入れる。 ・条件を設定したり文章の組み立てを考えたりしながら自分の考えを分かりやすく文章で表現する学習活動を工夫する。 ・作文や日記など自分が書いた文章を読み返す際に、言葉の使い方を確認する習慣を見つけさせる。 ・自分の考えを書き交流する活動を国語科に限らず様々な場面で取り入れる。 ・朝読書タイムや隙間読書の時間等を通して、読書の習慣の定着を図るとともに、語彙力の向上につなげていく。	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
	算数・数学	○どの領域も全国平均を上回っている。 ○数と計算領域では、6問中5問が全国平均を上回り、10ポイント以上上回る設問もあることから、計算の技能は概ね身に付いている。 ○図形領域において「ひし形をかきプログラム」を選ぶ設問では、80.6%(全国66.5%)で、図形の構成要素について理解できている。 ○データの活用領域では、3問中2問が全国平均を14ポイント上回り、表の意味や目的に応じたデータの特徴を捉えることができている。 ◆変化と関係領域では、4問中3問が全国平均を上回っているが、正答率は高くなく、特に割合を考えることに課題がみられた。 ◆数と計算領域では、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題がある。	○四則計算を中心とした各領域の基本的な力を養う。 ○問題解決の過程を大切に授業づくりにより、論理的思考力の向上を目指す。	・数と計算領域で、全国平均+3ポイント以上を目指す。 ・算数アンケートで「算数の学習は分かりやすい」と答える児童が80%以上になるよう目指す。	・週3回の朝学習(15分間)を継続して行い、計算力の向上を目指す。 ・算数だけでなく図や表を使って考えを整理したり、深めたりできるノート指導に取り組む。 ・授業の中に互いの意見を出し合う機会を設け、意見を交わし合うことで学習が深まる場面を設定する。 ・授業の理解度を見るために、練習課題等を実施し、個々の理解度を確認する。 ・算数言葉やつながり言葉の学習を行い、分かりやすく伝えようとすることや共に学び合おうとする態度を育てる。			
	ICT機器を効果的に活用した取組状況	◆「個別最適な学び」「協働的な学び」のためのツールとしてのICT活用が全国と比較して進んでいない状況にある。 ◆「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」は全国と比較してもやや高く、これからの活用に期待をもっているが、実際の授業での活用頻度は低い。	○ICT機器を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進することで、主体的な学びづくりを目指す。	・学テの質問紙PC・タブレットなどICT機器に関する質問の肯定的回答を昨年度より向上させる。 ・ドリルパークの使用頻度【家庭学習及び授業や朝学習等】を昨年度よりあげる。 ・教職員の研修の場を持つ。	・ICTを活用した授業実践に取り組む。 ・タブレットのアプリに未来シードのドリルパークを活用し、個の課題に応じた計算や漢字学習を推進する。 ・ICTを活用した授業や活用方法について、教職員が学ぶ場の設定をする。			
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○必要に応じて休み時間や放課後に学力補充をしたり、指導補助員や学習支援員が授業の中で、個別の学習支援を行ったりすることで基礎学力が向上した。 ○「数と計算」領域において概ねできている。「チャレンジタイム」で行った復習プリントやミライシードのドリルパークでの計算練習等の取り組みが成果として表れている。 ○単元ごとのテストについては、8割を超える児童が多い。 ◆学期のまとめテストでは8割を超えられない児童が増える傾向がある。 ◆文章題や思考力を問う問題は苦手にして児童が多い。 ◆漢字の定着率は、児童によって個人差がかなりあるような状況である。個	○計算や漢字といった基礎学力の定着を図る。 ○思考力を問う問題の答え方を身につける。	・各教科の単元テストにおいて、正答率8割以上を目指す。	・朝読書と朝学習を継続して行い、語彙力と計算力の向上を目指す。 ・学期末には「まとめのテスト」を実施し、漢字を中心とした言語事項の定着を図る。 ・単元テストやまとめテストにおいて合格ラインに満たない児童については、個別に復習、再テストをし、学習の定着を図る。 ・学習アプリの「ミライシード」のドリルパークを活用し、計算や漢字の定着を図る。			
	授業等からうかがえる状況(各教科)	○各担任は、隙間時間や放課後など時間を見つけ、学力補充の機会をとっている。 ○練習問題の時間を確保し、基礎学力の定着の時間をとっている。 ○朝読書の時間が定着し、集中力や文字を読む力が向上している。 ○自分の考えを持ち、それを全体の場で発表しようとする意識は、高まっている。 ◆理解度が分かる振り返りの書き方などには、まだ課題が見られる。 ◆算数言葉やつながり言葉を使用して、わかりやすく伝えようとしている児童もいるが、その動きはまだ全員には広がっていないため、今後も継続して取り組んでいく。	○互いに学びあう学習を進め、意見でつながることができるようにする。	・アンケートの質問で「授業がよく分かる」と答える割合が85%以上になることを目指す。	・自分の考えが持てるように、視覚支援を活用して問題を整理し、思考時間を確保する。 ・考えの理由を明確にさせていく。 ・つながり言葉を意識し、分かりやすく伝えようとすることや共に学び合おうとする態度を育てる。 ・授業の理解度が分かるような振り返りを書かせ、学級全体にフィードバックし、次時の学習に反映させる。 ・必要に応じて、休み時間や放課後に学力補充をする。			
慣学・力生活向上に慣れる等の学習状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	○朝食を毎日食べていると答えた児童が96.8%である。 ○就寝起床時刻に関しては、ほぼ同じ時刻に寝起きする習慣がついている児童が90%程度である。 ◆ゲーム時間に関しては、4時間以上が16.1%、3～4時間が9.7%と平日でもゲームの時間が長い傾向にある。 ◆平日の学習時間に関する質問では、25.8%が30分より少ない、全くないが6.5%と学習時間が非常に少ない児童が3割程度いる。	○早寝早起き・朝食・あいさつなど基本的な生活習慣の定着をはかる。	・全児童が朝食を摂って登校する。 ・長すぎるゲーム時間や短すぎる家庭学習時間の割合を前年度より減少させる。 ・児童アンケートのあいさつの項目で肯定的評価を昨年度より向上させる。	・家庭科、学級指導などで食育の学習を行い、望ましい食習慣を身につけさせる。 ・栄養教諭の食指導等を通して食に関する興味関心を持たせる。 ・学年に応じた家庭学習の方法、時間を提示し、家庭での学習習慣の確立を図る。 ・長時間の動画視聴による健康への影響や情報モラルについて学ぶ機会を設定する。 ・あいさつ強化への取り組みをすすめる。			
学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	○児童アンケートでは、話し手を見て最後まで聞くことやはっきり最後まで話すことについて9割を超える児童ができていますと答えている。 ◆子どもたちのゲームや動画の視聴時間が思いのほか長時間であること、家庭での約束が守られていないこと等がわかった。 ◆高学年になるほど、学習道具や宿題等の提出物の忘れ物も目立つ。	○保護者と連携しながら、より良い生活・学習習慣の確立を図っていく。	・朝食や睡眠、あいさつ、家庭学習等の基本的な生活習慣を問う項目において前年度の数値を改善させる。	・家庭で、ゲームや動画の視聴時間の約束ができるように保護者に啓発する。 ・どの学年も、保護者と密に連絡を取りながら、宿題等の提出物の忘れ物をなくす。 ・学校評価や児童質問紙のアンケート結果は、通信や懇談等さまざまな機会を通して、積極的に保護者へ伝える。				
校内研究・研修の状況	校内研究の状況	○導入を意識した授業づくりをしたことから、子どもたちの学びたい意欲が持続され、理解を深めることができた。 ◆ICT機器の効果的な活用を意識した授業研究も推進する必要性を感じている。	○道徳科にて「ちがいを認め合う」ことをテーマに研究に取り組む。	・年度末には、教職員間で交流した実践や授業まとめを記録としてまとめ、今年度の研究の成果と課題が冊子等の形として完成する。 ・道徳的価値への意識の向上と学びを日常生活につなぐ教育活動の実践に取り組む。 ・各学年、各クラスの取り組みを交流する機会を多く持つ。 ・道徳の校内研究授業を行う。 ・ちがいを認め合うことで、多様な考え方を身につけることにつなげていく。				
校内研修の状況	○講師を招いた研修を行い、実践の様子から学びの多様性を学ぶことができた。本校児童の課題から「学びかた」を共有できるようにしたい。	○道徳科の研究のねらいを達成するため研修を設定する。	・研究の成果と課題に研修についても明記する。	・講師を招聘した職員研修を行う。 ・教師の指導力を伸ばすような研修を設定する。 ・課題教育に対しての校内研修の充実を図る。 (人権教育・特別支援教育・ICT機器の効果的な活用に関する情報教育・特別活動など)				
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況	○学校だよりを始め、保健だより、学年通信などを利用し、望ましい生活習慣を身につけることの大切さを発信してきた。 ◆ゲームや動画の視聴時間が長時間に及び就寝時刻が遅くなる児童もおり、講演会や学級指導などで保護者にも協力を求める必要がある。	○家庭や地域との連携を図る。	・保護者アンケートの「開かれた学校・地域や保護者との連携」項目において、前年度より肯定的評価を向上させる。	・年2回の学校評価アンケートを実施する。また、その結果より把握した成果と課題等を保護者や地域に公表し共有する。 ・学校だよりを始め、保健だより、学年通信などを定期的に発信する。 ・参観懇談や行事の機会や、日々の連絡を密にすることで、保護者との連携を図る。 ・学校運営協議会を計画的に開催する。 ・学校支援ボランティアと連携した授業や活動を計画していく。			
小・中における教科連携等の状況	○中学校区の小学校と中学校で連携の機会を持ち、課題を共有することができた。今後も継続し、小学校から中学校への移行をよりスムーズにできるようにしたい。	○中学へのスムーズな移行と保幼小中の連携を深め、小中一貫教育の推進を図る。	・年間を通じた継続的な中学校区の連携の会を年3回以上実施する。 ・中学校区でめざす子ども像を共有し、9年間を見通してカリキュラムの作成に取り組む。	・中学校区内の4校で児童生徒の様子との交流、授業参観を行う連携の会を実施し、中学校への円滑な接続を図る。 ・新中学1年生の様子を交流しながら、小中連携担当を中心に小学校から中学校へのよりスムーズな移行の在り方を検討する。 ・中学校へのスムーズな連携を目指して、兵庫型学習システムの導入に向けた、計画を検討する。 ・学校・園だよりの交流				